

コード	大項目	小項目	問題	解説	解答
16012	環境	温熱感覚	温熱6条件とは、気温・湿度・気流・熱放射・代謝量・着衣量のことである。	人が感じる温度感覚の要素のうち、室内環境側の要素として温度(気温)、湿度、風速(気流)、周壁の輻射(放射)の4要素があるが、その他にそれら4要素の影響を受ける人間側の要素として作業量(メット値)・着衣量(クロ値)の2つの要素がある。人の温熱感覚は最終的にこれら6要素の影響により決まる。(この問題は、コード「03085」の類似問題です。)	○
16031	環境	結露	暖房室につながり、屋外に接した北側の非暖房室は、結露しやすい。	暖房した部屋で発生した水蒸気が北側の非暖房室に流入すると、表面温度の低い壁面等で結露を引き起こす。(この問題は、コード「10011」の類似問題です。)	○
16033	環境	湿り空気	換気を行うと、一般に、室内の絶対湿度が低下するので、表面結露の防止に有効である。	湿り空気 $1\text{m}^3$ 中に含まれる水蒸気の重量を絶対湿度という。(もくじ番号01.空気状態の解説P1参照。)換気を行うと、一般に、室内の絶対湿度が低下するため、表面結露の防止に有効である。(この問題は、「もくじ番号01.空気の状態の解説」を理解しておけば解けた問題です。)	○
16034	環境	結露	熱橋部分の室内側は、結露しやすい。	<p>外壁の出隅部分(熱橋部分)においては、室内側表面積より、屋外側表面積のほうが大きくなるため、室内側表面温度が一般部より低下し、結露しやすくなる。(この問題は、コード「10014」の類似問題です。)</p> <p>一般部: lより、室内側表面積と、屋外側表面積が等しいため、出隅部に比べて、熱貫流率は小さくなる。</p> <p>出隅部: L&gt;lより、出隅部では屋外側表面積の方が熱貫流率は大きくなるため、ヒートブリッジ(熱移動が著しい部分)となり、結露しやすい。</p>	○